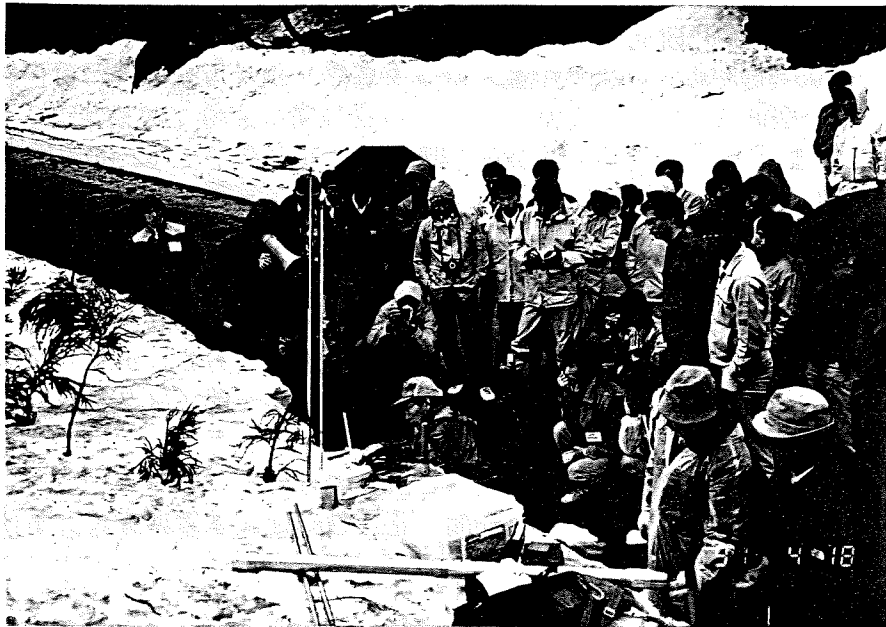


雪崩分科会レター

No. 9 (1991年9月)

日本雪氷学会雪崩分科会



第2回雪崩対策の基礎技術研修会風景

- P 1 雪崩分科会例会の御案内
- P 3 第2回雪崩対策の基礎技術研修会へのご協力御礼
- P 5 第2回雪崩セミナー報告
- P 7 新潟大災害研「雪泥流研究分野」の発足
- P 8 日米科学技術協力ー雪崩・地すべり・土石流ワークショップの開催
- P 10 分科会会費納入のお願い
- P 11 雪崩分科会活動・研究企画の募集について

<事務局>

富山大学理学部 川田邦夫 気付

- ・雪崩の到達範囲の統計的検討
- ・ノルウェー・リゲフォーンにおける人工雪崩実験
- ・壁、杭および小円板に及ぼす雪塊の衝撃力
- ・模型実験による雪氷混層流の内部構造の研究 (VI)
 - －氷球を用いたシュート実験－
- ・黒部ホウ雪崩の実験的研究 (V) －雪崩風の構造－

☆☆ 懇親会へのお誘い ☆☆

なお当日17時30分より近くの万年喜鮨（まねきすし）にて講師の方々を囲んで懇親会を行います。例会に間に合わなかった方も、夜のつくばに不案内な方も、非会員の方も、どうぞ飛び込み参加を歓迎いたします。

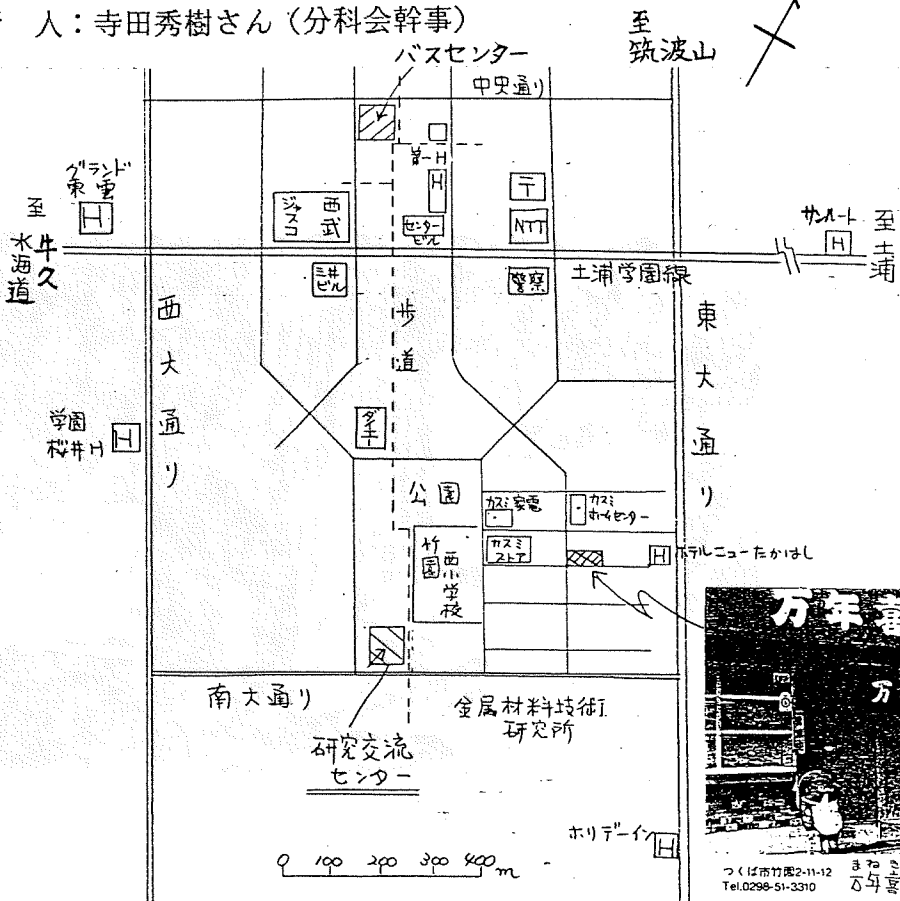
懇親会会場：「万年喜鮨（まねきすし）」

つくば市竹園2-11-12

電話：0298-51-3310

会費：5000円程度。

世話人：寺田秀樹さん（分科会幹事）



雪崩分科会懇親会場案内図



つくば市竹園2-11-12 まねきすし
Tel.0298-51-3310 万年喜鮨

第2回雪崩対策の基礎 技術研修会へのご協力御礼

雪崩分科会会長 新田隆三

ご承知のとうり平成3年4月16日～18日、新潟県湯沢町で日本雪氷学会主催の標記雪崩研修会を開催いたしました。第1回と同様、今回も学会事務局の協力のもとに研修会の実行は本分科会が担当いたしました。

研修会のプログラムは本分科会レターNo.8の13～14ページに、実行の経過は機関誌「雪氷」53巻2号178～179ページに、それぞれご紹介いたしました。

研修会は定員50名の参加者を迎え、好評のうちに終えることができました。また余分に印刷したテキストも7月前半に完売することができました。これも皆様のご協力の賜物と関係者を代表してお礼を申し上げます。なお、来年も第3回研修会を開催する所存でございます。今後とも研修生の派遣、テキストの購入等、本事業にご協力を下さいますようお願い申し上げます。



研修を終え修了証を中島日本雪氷
学会副会長から授与された研修生

研修会参加者名簿

No	氏名	勤務先・役職名
1	石山 秀樹	東京製綱(株) 札幌支店 機工課
2	吉田 泰則	東京製綱(株) 機工設計部
3	中川 武	電源開発(株) 奥清津電力所
4	西野 壯一	国土計画(株) 苗場スキー場 ゲレンデ課長(代)
5	大矢 寿雄	(財) 林業土木コンサルタンツ 前橋支所治山課
6	伊藤 輝	三英銅業(株) 技術課
7	島村 誠	東日本旅客鉄道(株) 安全研究所 主任研究員
8	林 昌司	国際スキー開発(株) 次長
9	金田 安弘	(財) 日本気象協会北海道本部 環境調査課長代理
10	川村 光孝	(財) 日本気象協会関西本部 調査部応用気象課課長代理
11	荒沢 進	(有) 山光測舎 代表取締役社長
12	市場 幸雄	白馬観光開発(株) 企画開発室
13	元村 幸時	白馬コルチナ国際スキー場 パトロール隊長
14	細野 安信	同上
15	樋口伸一郎	奥白馬高原開発(株) 総支配人 白馬コルチナ国際スキー場
16	五十嵐和一	新潟県六日町土木事務所 維持管理課維持第二係主任
17	藤田 太子	新潟県土木部砂防課 主任
18	中沢 慎一	東京電力(株) 工務部工務土木課
19	吉田 義浩	新潟県三条土木事務所 主任
20	渡辺 幸雄	新潟県小千谷土木事務所 治水課第二係主任
21	石窪 雄二	関西電力(株) 中央送変電建設事務所 送電設計課
22	豊田 稔	関西電力(株) 総合技術研究所 流通設備研究室(送電) 副主任研究員
23	山形 一雄	同上
24	黒田 辰雄	関西電力(株) 北陸支社 電路課
25	相馬 要一	(株) 興和 工事部係長
26	黒崎 継夫	(株) 興和 上越営業所 調査課長代理
27	佐藤 靖	仙台道路エンジニア(株) 調査設計第一部主任
28	関口 辰夫	建設省国土地理院地理調査部 地理調査技術開発室
29	野々山直人	(財) 林業土木施設研究所 主査研究員
30	斎藤 興	(財) 林業土木施設研究所 研究員

31	青木 猛志	日鐵建材工業(株) 一般土木営業 技術部
32	梶沢 義彦	日鐵建材工業(株) 新潟営業所 係長
33	春木 茂夫	北海道開発コンサルタント(株) 交通施設部
34	池田 保夫	同上
35	中森 達	同 環境保全部 技師
36	古川 達夫	青森県土木部砂防課 主査
37	平野 恒義	安塚総合開発(株) 取締役部長
38	石野 要	安塚総合開発(株) 東道管理部 パトロール課主任
39	下田 嘉則	エヌ・エス環境科学コンサルタント (株) 札幌支社 環境調査室次長
40	丸山 邦男	(株) アルゴス 雪氷技術センター
41	松井 秀雄	同上
42	渡辺 一儀	同上
43	峠 重幸	(株) 上越観光開発 開発管理担当係長
44	藤井 守男	(株) 赤倉スキー観光サービス 業務部長
45	平野 晴彦	横河ウエザック(株) 技術部主任
46	高橋 稔郎	新潟県小千谷林業事務所 施設課防災係主任
47	船見 諷	新潟県農林水産部治山課
48	小林 修	相澤工業(株)
49	東海林 陸	同上
50	井出 鎮生	(社) 雪センター 研究調査部長

講師 名簿

講師名	勤務先・役職名
阿部 勉	関越ロードメンテナンス(株) 専務取締役
和泉 薫	新潟大学積雪地域災害研究センター 助教授
遠藤 八十一	農林水産省森林総合研究所 十日町試験地主任
寺田 秀樹	建設省土木研究所 急傾斜地崩壊研究室 主任研究員
新田 隆三	農林水産省森林総合研究所 森林環境部防災科長
町田 誠	町田建設(株) 代表取締役社長
渡辺 成雄	元農林水産省林業試験場十日町試験地 主任

第2回雪崩セミナー報告

北海道大学低温科学研究所 福沢卓也

研究と活動の接点という立場で始まった雪崩セミナーの第2回目が1991年1月26・27日、雪崩講習会というかたちで開催された。ほぼ同じ時期に遭難対策講習会を計画していた北海道大学山とスキーの会および同山スキー部とジョイントでの開催となった。冬山登山者のほかスキーヤー及びスキー場関係者を講習対象とした。

一日目の講演会に続いて、二日目は手稲山麓において実践的な講習会を行った。講師は、本講習会の趣旨に賛同して遠路駆けつけてくださった新田先生と中山氏、低温研に留学中のジスキン氏および福沢の計4名で、それぞれ下記の演題内容を分担した。一日目の講演会には、予想をはるかに上回る130人もの聴衆が集まり、話す側も聞く側も熱のこもった講演会となった。二日目の実践講習には、講師と受講者の人数的なバランスをとるために、団体参加の場合は人数制限をせざるを得ず、希望者の半分にあたる60人しか受講できなかった。スノーピット内で弱層の確認および強度テスト、さらに埋没者の捜索法について講習した。これらの中で、受講者の注目を集めたのは、ジスキン氏による雪崩ビーコンの紹介であった。ビーコンとは、埋没者を素早く的確に捜し出すために開発された小型トランシーバーのことで、欧米では既に普及しているが、日本では全くと言っていいほど普及していない。今後、雪崩ビーコンの開発と普及が期待される。

全身雪まみれになって夕方まで熱心に受講した人々の真剣さを、講師一同ひしひしと感じ、講習会の必要性を痛感した。

記

主催： 北海道大学低温科学研究所雪害部門
北海道大学山とスキーの会・同山スキー部

講師：

新田 隆三 (日本雪氷学会理事・雪崩分科会会長)
中山 建生 (日本勤労者山岳連盟理事)
Ziskin Charles (University of Colorado)
福沢 卓也 (北海道大学低温科学研究所)

日時： 1991年1月26日 14:00～17:30
27日 8:00～15:30

場所： 26日：北海道大学低温科学研究所講義室
27日：手稲山麓、パラダイスヒュッテ
参加費：無料。ただし、27日は、実費1000円（交通費、保険料）
定員： 27日は60人まで

プログラム：

1/26

雪崩ビデオの紹介	ジスキン
積雪の構造とその安定度	福沢
北海道における雪崩の特徴	新田
埋没者の救助方法	〃
登山者が雪崩事故を防ぐために	中山

1/27

8:00 札幌駅北側東口_☎_ヒュッテ

午前 埋没者の搜索法

- ・埋没体験
- ・スカッフとコール
- ・ゾンディング
- ・雪崩ビーコンの紹介

午後 積雪の安定度とその判定法

- ・積雪内部の観察
- ・弱層の確認
- ・弱層テストの実践
- ・雪ビの危険性

新潟大災害研「雪泥流研究分野」の発足

新潟大学積雪地域災害研究センター・小林俊

私たちの研究センターは、学内共同教育研究施設として昭和53年4月に地盤災害、氷技術、地水系保全の3研究分野で発足した。昭和56年4月に新たに地すべり研究分野が認められたが10年の時限としてであった。平成3年3月で一応の研究成果を得て廃止ということになった。センターとしてはそれに代わる新研究分野を2年前から準備してきた。第一候補としては「土石流・崩壊」研究分野を計画して文部省と交渉してきたが、従来の「地すべり」との違いについて納得させることが出来ず名前の点で難航した。結局「雪泥流研究分野」に決定したがこれも平成3年4月から10年時限としてである。以上の経緯からセンターでは雪泥流 (slush flow) を積雪地の土石流として捉え、砂防学的手法で研究することで方針が固められた (青木滋教授・丸井英明助教授担当)。本来の雪泥流の他に最初の念願であった土石流・崩壊をも含めて研究することが出来る。「雪泥流」という述語は学会では未だ認められてはいない。これまで「スラッシュ」という言葉が使われてきたが、私たちのセンターで新しい研究を発展させ、雪泥流を学会に定着させていきたい。因みに、雪泥流を水で飽和した雪が突然流動した現象と定義したい。

雪泥流研究分野の新設にあたり、名前の点で若浜五郎、中島暢太郎、秋田谷英次、中村勉、新田隆三、大沼匡之の諸先生方に相談し支持を得ましたことにこの紙面をお借りして深く御礼を申し上げます。また、皆様方の御支援と共に研究を発展させて頂けますようお願い致します。

* 紹介 * 日米科学技術協力－雪崩・地すべり・土石流ワークショップの開催

防災科学技術研究所新庄雪氷防災研究支所 阿部 修

本ワークショップでは、1980年から10年を経過した日米両国間の「雪・雪崩の制御および地すべりの予知・制御の研究」に関する国際協力のまとめを行い、今後の研究協力の方向・研究テーマを探る事を第1の目的としているが、本国際協力の枠内にとどまらず、雪崩・吹雪・地すべり・崩壊・土石流等の多岐に亘る内容の研究発表が行われる。使用言語は英語である。研究会議には誰でも参加できる。参加希望者は原則として申込用紙を入手・記入の上、郵送またはファックスで下記組織委員会宛送付する。当日は、1課題につき2ページの英文アブストラクト集が配布される。なお、論文集は1991年12月末に発行される予定である（希望者に配布予定）。

1. 日程 1991年

日 程	午 前	午 後	夜
9月30日 (月)	参加者登録 セッション1：雪・雪崩	セッション2：雪・雪崩	レセプション
10月1日 (火)	セッション3：地すべり 土石流	セッション4：地すべり 土石流	
10月2日 (水)	セッション5： ワークショップ	セッション5：同続き 閉会の辞	
10月3日 ～5日	現地見学：新潟県長岡市，十日町市，安塚町，能生町，長野県 長野市の研究機関や試験地，災害現場		

上記の各セッションの時間割は暫定的。
確定したプログラムは3rd Circular に掲載される。

2. 場所

科学技術庁 研究交流センター
〒305 茨城県つくば市竹園2-20-5

3. 主催

日米科学技術協力－雪崩・地すべり・土石流ワークショップ組織委員会

4. 連絡先

〒 [redacted] 科学技術庁 防災科学技術研究所内
「日米科学技術協力-雪崩・地すべり・土石流ワークショップ組織委員会」
(略称:日米ワークショップ'91) 幹事 富永雅樹
電話 [redacted]

5. 雪・雪崩関連の研究発表

発表予定の研究題目の中から,雪・雪崩に関するものを項目別に紹介する.全体の62編のうち,24編を占める.これらの他に,地すべりや土石流に関するものの中にも興味ある研究発表が多数予定されているので,通して参加されることをすすめる.

A. 降積雪

ADAMS, E.(USA): Thermal Model for Snow on Three Dimensional Terrain.
SATO, A. & KIMURA, T.(JPN): Measurement of Snow Mass Flux with Snow Particle Counter.

B. 雪崩

- ABE, O. et al.(JPN): Impact Pressure Distributions of Snow Blocks measured on a Wall, a Post and Disks.
ABROMEIT, D. et al.(USA): Snow Avalanche Hazard Mitigation by Artificial Release Technologies.
ENDO, Y.(JPN): Time Variation of Stability Index of New Snow on Slopes.
FUJISAWA, K.(JPN): Experimental Study of Structures for Deflecting Avalanche.
ITO, T.(JPN): Investigation on Hazardous Points and Damages to Avalanches.
KATTELMAN, R.(USA): Forest Influences on Snowpack Structure in the Sierra Nevada, California.
KOBAYASHI, S. & IZUMI, K.(JPN): A Study on Slush Flow Disasters.
KOBAYASHI, Y.(JPN): Travel Mechanisms of Large Debris Avalanches.
NAKAGAWA, M.(JPN): Simulations of Rapid Bimodal Granular Flows.
NAKAMURA, T.(JPN): Activities of the Japan/US Joint Program under the Snow and Snow Avalanche Management.
NAKAMURA, Y. et al.(JPN): Administrative System and Undertakings Against Snow Avalanches in Japan.
NAKANISHI, H. et al.(JPN): Numerical Simulation of Motions Avalanches by "Ball Model".
NISHIMURA, K. & NAKAGAWA, M.(JPN): Chute Flow Experiments of Ice Spheres.
NOHGUCHI, Y. et al.(JPN): Granular Flow of Finite Mass of Snow Particles on a Boundary Moving along Circular Arc Shaped Bed.

SEKIGUCH, T. et al.(JPN): Geomorphological Characteristics and Distribution of 'Full-depth Avalanche Slope'.

TERADA, H. et al.(JPN): Method for Evaluating Snow Avalanche Occurrence on Basis of Fuzzy Theory.

TERADA, H. et al.(JPN): Experimental Study on Velocity Retarding Effect of Vertical Pipe Type Dissipator.

TREMPER, B. et al.(USA): Avalanche Forecasting Technology in the United States.

YAMADA, Y. et al.(JPN): Ground Snow Avalanche due to Instability of Snow Glide Motion.

C.吹雪

HIGASHIURA, M. et al.(JPN): Studies on Clarification of Drifting Snow Occurrence and Development of Disaster Prevention Technology.

ISHIMOTO, K.(JPN): Observation of Blowing Snow by Snow Particle Counter and Real-Time Processor.

NAKATA, T.(JPN): Three-dimensional Numerical Simulation of Snowdrift.

<分科会会費納入のお願い>

雪崩分科会の会計年度が来る平成3年10月から新規となります。つきましては平成3年～4年度(2年度)分の会費を平成3年10月末日までに郵便振替にてお納め下さるよう、お願いします。ニュースレターの発行や企画の連絡等は皆様からの会費によってまかなわれています。ご協力の程お願いします。

なお、各位に会費納入のお知らせ(団体会員については請求書)を同封しましたのでご覧下さい。

個人会員	1000円(500円×2年分)
団体会員(2人以上の組織)	2000円(1000円×2年分)
郵便振替口座名	日本雪氷学会雪崩分科会
口座番号	山形2-10885

領収書が必要な方は振替用紙の裏にその旨付記するか、会計幹事へお申し出ください。会計幹事の連絡先は下記の通りです。

防災科学技術研究所 新庄雪氷防災研究支所
阿部 修

雪崩分科会活動・研究企画の募集について

(分科会幹事会)

雪崩分科会の活動を活性化するため、会員間に関心のある調査・研究課題等について研究会のようなものを持ち、より多くの関心ある人達の検討を加えて研究が発展するようにしたいと考え、昨年から研究企画の募集を行っています。具体的な規約等はありませんが、応募していただいた研究企画が大いに推進される内容のものと判断された場合、企画推進の費用として、一件につき5万円程度を限度に会合や、通信等にかかる費用を分科会の経費から出すことにしています。

これらの研究部会への参加は雪崩分科会全会員に開かれたものとし、一般的情報はニューズレター等で流すこととします。具体的かつ詳細な情報は研究部会への参画者の中で行って結構ですが、とにかくオープンであるように願います。

1991年9月末までに研究企画を提出していただき、10月中をめぐりに幹事会等で検討して決定したいと考えております。形式はありませんが、研究部会名、簡単な目的と内容、代表者名(世話役)等をメモして分科会会長もしくは分科会庶務(川田)宛にお送り下さい。また、ご意見等もお聞かせいただければ幸いです。

なお、昨年は「雪崩ダイナミクスWG」(代表者:北大低温研 前野紀一氏)が採択されています。